

天神島および笠島保護水域内における クロサギの繁殖記録

村石健一*

Breeding record of Eastern Reef Heron

Egretta sacra in Tenjin-jima Island,

Sagami Bay

MURAISHI Kenichi*

キーワード: 天神島, クロサギ, 繁殖, 神奈川県
Key words: Tenjin-jima, eastern reef heron, breeding,
Kanagawa prefecture

クロサギ *Egretta sacra* (Gmelin, 1789) は、河川や水田、湿地など内陸の水辺環境に生息するほかの多くのサギ類と違い、主に岩礁海岸や干潟などの海岸環境を生息場所としている。本種は北海道での確認記録(森口, 1973)があるものの、主に本州以南に分布し、繁殖の北限は秋田県の男鹿半島と考えられている(真木・大西, 2000)。神奈川県下では三浦半島の城ヶ島と真鶴半島での繁殖が確認され(柴田・金田, 1959)、神奈川県レッドデータブックにおいて繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類にランクされている(加藤ほか, 2006)。

2010年に横須賀市佐島の横須賀市自然・人文博物館付属天神島臨海自然教育園の保護・管理水域内の笠島でクロサギの繁殖を確認することができたので報告する。

本報をまとめるにあたり、日本大学生物資源科学部博物館の田中雅宏氏に笠島でのクロサギ情報をご提供いただいた。横須賀市自然・人文博物館の馬場正氏には現地調査で、萩原清司氏にはご助言をいただいた。また金田正人、御手洗望、金子博子の各氏にもご協力をいただいた。この場に記して厚くお礼申し上げる。

これまでの経過および観察方法

笠島では2002年にはじめて巣立ち雛が確認され(田

中, 私信), それ以降も同様に観察されている。ただし繁殖については未確認のため、2010年4月から7月に天神島から目視観察による営巣確認の調査を行った。

調査は主に10倍の双眼鏡を使用して天神島の海岸、海上及び笠島周辺を観察した。また笠島にいる鳥類の識別のため補足的に20~40倍の望遠鏡を使用した。時間は主に9:00から17:30までの間で行い、必要に応じて、その前後の時間も補足的に調査した。

観察結果

4月24日に笠島で成鳥1羽が岩のくぼみに巣材を運ぶ様子が観察された。くぼみの奥に入り込んだ後の行動は確認できなかった。成鳥1羽が岩のくぼみに入る様子が頻繁に見られたが、巣材を運んでいる姿を確認できたのは1度だけであった。

5月にも同じ岩のくぼみ近くで成鳥を何度か確認した。1羽だけの確認が多かったが、時には2羽同時に見られたこともあった。しかし繁殖行動の指標となる交尾や餌を運ぶなどの行動は観察できなかった。

6月5日は天神島の磯で成鳥が1羽見られ、その後もう1羽が笠島方向から同場所に飛来し、2羽で採餌を行っていた。ほぼ同時刻に笠島の岩のくぼみにいる1羽を確認したが、幼鳥であることの判断はできなかった。

6月6日に笠島の岩のくぼみで、頭部に白い羽毛が残り、背面も褐色味がある幼鳥の特徴を有した1羽を発見した(第1図)。約15分の観察では、羽繕いをするほか目立った動きは見られなかった。

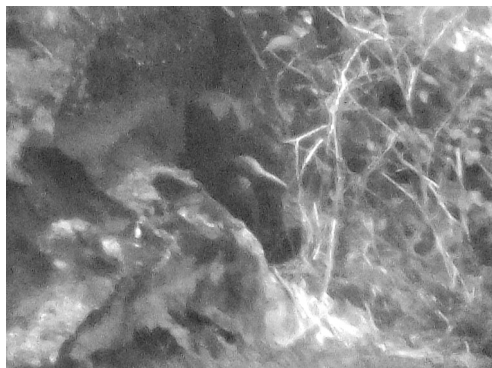
6月19日には成鳥1羽が岩のくぼみに近付いたアオサギを攻撃し、追い出す行動が見られた。しばらくすると岩のくぼみから出てくる幼鳥と思われる3羽が確認できた。羽繕い、羽ばたきの練習をする様子が見られたが、成鳥が戻ると岩のくぼみへ入ってしまった。

7月3日には幼鳥と思われる4羽が成鳥1羽から給餌を受ける行動が観察された。この事例によって4羽が幼鳥であることが裏付けられた。その後別の成鳥が幼鳥に近付くアオサギを執拗に攻撃し、追い出す行動も確認された。成鳥が戻ってくると幼鳥は岩のくぼみへ入ってしまったが、4羽の幼鳥の行動は6月19日の事例とほぼ同じことから、この岩のくぼみが営巣地であったと考えられた。

7月3日以降も笠島で幼鳥1羽を確認したが、複数羽を同時に見ることはできなかった。

その後11月に笠島に上陸する機会を得たので巣の確認をすることができた(第2図)。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台 95
原稿受付 2010年10月30日 横須賀市博物館業績 643号



第1図 巣から姿を現した幼鳥.



第2図 2010年に使われた巣の跡.

おわりに

2010年4月23日から7月31日までの観察によって、天神島臨海自然教育園保護水域内にある笠島でのクロサギの繁殖が確認された。今回は4羽の幼鳥が確認さ

れたが、清棲(1978)によると、1巣での産卵数は3~5個で3個の例が多い。

また巣立ち後のクロサギの行動については、今回の調査方法では笠島の北西奥側の半分以上が観察できなかったため、幼鳥、及び親鳥が分散してしまったのか、笠島内の見えないところで生息していたのかは確認できなかった。

今回の天神島臨海自然教育園内にある笠島でのクロサギの繁殖記録は、神奈川県下でも数少なく貴重である。また、この記録が保護区域内での記録であることも特筆すべき点である。城ヶ島で発見された4巣のうち、繁殖が成功したのは人が全く接近不可能な岩棚の1巣であり、失敗した3巣のうちの一つは人為的な影響があったことが示唆されている(柴田・金田, 1959)。人の接近がクロサギの繁殖に影響を与えていると思われるので、平らな地形の笠島において、人の立ち入り自由になれば、巣を放棄してしまう可能性は非常に高いと言える。今後も笠島をクロサギなどの貴重な鳥類の繁殖地としても保護するべきであろう。

引用文献

- 加藤ゆき・浜口哲一・平田寛重・石井 隆・秋山幸也
2006. サギ科 Ardeidae. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006: 237. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 清棲幸保 1978. 日本鳥類大図鑑 III. 922-923 ページ. 講談社.
- 真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥 590. 72 ページ. 平凡社.
- 森口和男 1973. クロサギ(*Egretta sacra sacra*)北海道函館山に渡来. 鳥, 22 (93-94): 68.
- 柴田敏隆・金田 平 1959. 城ヶ島のクロサギとその蕃殖について. 横須賀市博研報 (自然), (4): 43-47.